

## エゾシカワーキンググループの経過報告・今後の予定

### 1. 令和4年度エゾシカ WG の開催概要

- ・第1回会議 令和4年7月4日（月）斜里町産業会館  
※WG開催後、7月5日（火）午前に現地視察を実施

### 2. 主な議事内容

令和4年度の実行計画案に関して、特に、確認個体数が増加している知床岬地区での対策方針を中心に議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

#### ■2022（令和4）シカ年度実行計画案について

- ・昨年度行われた航空カウント調査において、知床岬地区の確認頭数が大幅に増加※したことを受けて、この数年は十分な捕獲成果が上げられていない現状に照らし、目標を高め設定した上で、様々な手法を取り入れて捕獲を継続する。  
※2019シカ年度：16.1頭/km<sup>2</sup>、2020シカ年度：58.2頭/km<sup>2</sup>、2021シカ年度：78.64頭/km<sup>2</sup>
- ・そのためには、知床岬により重点を置き、実行計画案のさらなる見直しが必要であり、今冬の捕獲事業に間に合うように、次回WGまでにリモートでの協議の場を設定する。
- ・また、効果的な個体数調整のためには、知床岬地区でのエゾシカ動態予測とそれに基づく捕獲目標の設定が必須であり、より精度の高いシミュレーションの実施が必要である。

#### ■第2期長期モニタリング計画について

- ・気象観測に関する項目については、エゾシカの個体数変動や植生の変化など陸域生態学の観点からモニタリングしていくべきであり、現時点ではエゾシカWGの担当が良い。ただし将来的には、陸域と海域双方の視点から遺産地域全体の気候変動の影響を総合的にモニタリングしていくために、気候変動WGの設置などを別途検討する必要がある。
- ・鳥類相や昆虫類相については、インベントリ調査として生物多様性に関する評価項目Cに紐付け、「関連するモニタリング」として扱う。鳥類相はエゾシカによる影響に関する評価項目Kにも残す。また当面は、これらのモニタリング項目も引き続きエゾシカWGで担当する。

### 3. 令和4年度エゾシカ WG に関する今後の予定

- ◆2022（令和4）シカ年度実行計画（遺産地域）に係るリモート協議  
令和4年9月中（予定）
- ◆第2回エゾシカWG  
令和4年11月～12月（予定）

以上